

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

福井市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	木田	小学校	鉄棒やなわとびの動画を作成したことで、休み時間に積極的に運動する児童や、大縄に取り組むクラスが増えた。 体育の授業でICTを活用したことで、友達と関わりながら運動に取り組むことができた。
2	豊	小学校	年間を通して体力向上の取り組みを行ったことで、持久力の数値が県平均と比べて高い結果になった。 コロナ禍が明けたことで、たてわりでの大縄や区民体育大会、スポーツフェスタなど多様な環境で、児童が運動する機会を作ることができた。
3	足羽	小学校	学校評価アンケートにおいて、「体育等、めあてが達成できるように取り組んでいる。」の項目が、91%であった。(目標指数は90%) 保護者に向けた学校評価アンケートにおいて、「我が子は、体育大会やマラソン大会など、めあてを持って取り組んでいる。」の項目がR4年度の85%から今年度は87%に上昇した。
4	東安居	小学校	体力テストの結果は、県や市の平均に及ばない種目が多かったが、同一集団での昨年度のTスコアと比較すると、伸びている種目が多かった。特に、上体起こしや立ち幅跳びでの記録がよくなっている。 運動ビンゴカードを作成したことで、業間になわとびや鉄棒に意欲的に取り組む児童が増えた。 一輪車の貸し出しを増やしたり、安全に使用できるよう場を工夫したりしたことで、休み時間に進んで体を動かす児童が増えた。
5	湊	小学校	時間走を効果的に取り入れ、自分の記録が伸びていくことを実感することで、児童の体力だけでなく意欲面も向上した。体力テストのシャトルランでは、4・5年生は男女とも全国平均を超えた。 グーパー体操に継続的に取り組むことにより、体力テストでの握力の結果が向上した。6年生男女、5年生女子、4年生男子では全国平均を超える結果を残した。 「目の健康カード」を年2回実施し、学校保健委員会の前後で4項目全て数値が上昇した。その中でも、「よい姿勢をとろう」が一番上昇し、1回目が55.5%、2回目が67.2%であった。
6	春山	小学校	12月に行った学校評価児童アンケートから「体育やスポーツタイムであきらめずに取り組んでいる」項目では95%の児童が肯定的回答をした。マラソン大会や器械運動発表会を計画し、タイムがはっきり出ることや友達同士で見合って取り組んだことで自己評価が高くなったと考えられる。朝のトレーニングを年間通して全校で取り組んだことで、全身の筋力の維持向上につながり、特に50m走の項目では昨年度と比べ、県平均を上回る学年が増えた。
7	順化	小学校	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、体育的行事の異学年交流や保護者参観を積極的に行った。児童は、たくさんの人の声援を受け、実力を十分に発揮する姿が多く見られた。行事毎に、目標設定と振り返りを行うことで、体育嫌いや苦手意識のある児童が取り残されずに、「自分も一生懸命に取り組めた」という自信を身につけることができていた。また、なわとび大会においては、ハイブリット型の授業公開を行った。
8	宝永	小学校	4年生の体力テストのTスコアがすべて50以上で、平均を大きく上回っていた。 マラソン推進期間に、児童全員がマラソンに親しめるよう、チーム駅伝や個人タイム走などを取り入れ、実践を行うことができた。
9	松本	小学校	体力テストの結果から、特に持久力が高くなってきている。今後も持久力を高める運動を全校的に取り組んでいきたい。 児童アンケートでは運動を好む児童が93%と高い標準を保っている。

10	日之出	小学校	主運動に合った準備運動に取り組むことで、単元ごとに様々な動きをバランスよく行うことができた。 昨年度、女子の20mシャトルランが県平均を上回った。今年度は、男女ともに20mシャトルランが県平均を上回っており、コロナ禍でも取組み方を工夫しながら、マラソンやなわとびといった全身持久運動を継続してきた成果を感じている。
11	旭	小学校	体力測定「ボール投げ」では、市、県、国の平均記録を4年男子(18.67m)、5年男子(22.95m)で上回った。 本校の児童を対象としたアンケートで「運動することに興味をもち、進んで体を動かしている」と答えた児童は全体の94%だった。
12	和田	小学校	体育館やグラウンドの使用割当を昨年度よりも増やしたことにより、運動に取り組む児童が増えた。 ランニングタイムの活動中は、朝の活動の時間を使って全校をあげて外を走ることができた。 器械運動や縄跳びの学習では、学年内で発表会を行い、目標をもって取り組ませることで活動の意欲が高まった。また、柔軟運動に力を入れたことで、昨年度より怪我の件数が減少した。
13	円山	小学校	12月校内意識調査によると、「スポーツ・運動が楽しい、好き」と感じる児童が87%だった。運動を「する」楽しみだけでなく、行事や体力テスト、大谷翔平選手グローブ寄贈などの機会を通じて、関わる・支える・見る楽しみを見いだしながら全校で活動してきた成果だと言える。
14	啓蒙	小学校	コロナによる活動制限がなくなり、マラソントイムや大縄跳びの練習等、全校で一緒に体を動かす時間を設けることができた。縦割り班で体を動かすことで互いに打ち解け合えるよさを味わえた。普段の休み時間でも学年関係なく遊ぶ姿が見られる。
15	西藤島	小学校	安全対策として体育館の割り当てや鉄棒の使い方等を工夫した。異学年のペアで鉄棒利用を割り当てたことで、様々な技を見る機会ができ、鉄棒運動の意欲向上につながった。 準備運動での「グーパー体操」の実施等により、体力テストでの握力の数値が向上した。
16	社北	小学校	水泳場を利用しての学習は、1時間プールに入水し学習に取り組めるように時間を設定した。設備も整い、天候にも左右されない環境の中で充実した学習を行うことができた。また、低学年は、校内プールをいつでも利用でき、学習の回数を確保することができた。
17	社南	小学校	校内体育部を組織したことにより、体育大会をはじめとした体育的行事について全校体制で取り組むことができ、円滑に進めることができた。 体力テストの結果から、5・6年の握力が前年度より最大2.71kg高くなっているほか、4～6年において全国平均を最大1.36kg上回っていた。
18	安居	小学校	体力テストの長座体前屈では、県平均を超える値を記録することができた。 アンケートで93%の児童が「体育の授業や体育の行事にめあてをもって取り組んだ」と回答していた。
19	中藤	小学校	運動が「大変好き」「まあまあ好き」と答えた児童が全体の7割いた。(体力テストのアンケート結果より) 「1日30分以上運動をする」と答えた児童は全体の7割以上となっており、昨年よりも数値が上がっていた。
20	大安寺	小学校	コロナ禍明け初の地区体育大会を実施した。地域の方との交流を楽しみながら、競技に参加することができた。 ろう学校と合同の器械運動交歓会を実施し、他校の児童と交流する中で、体育に取り組む姿勢や器械運動の技を学び合うことができた。

21	河合	小学校	<p>体育授業時の補強運動、柔軟体操の継続によって、体力テストの握力と長座体前屈は、学校全体として昨年度より向上傾向にある(4~6年)</p> <p>【握力】→ 4年男子…昨年度14.21 今年度15.21 4年女子…昨年度15.38 今年度15.56 (単位:kg) 5年男子…昨年度17.09 今年度17.21 5年女子…昨年度16.12 今年度17.77 6年男子…昨年度18.64 今年度19.86 6年女子…昨年度20.36 今年度19.00</p> <p>【長座体前屈】→5年男子…昨年度 26.24 今年度 29.00 5年女子…昨年度32.38 今年度 37.62 (単位:cm) 6年男子…昨年度 35.59 今年度 37.59 6年女子…昨年度39.56 今年度 42.76</p> <p>保健指導や児童に取り組ませる保健カードが児童の実態に即しており、長期休み前後に配付することで、生活リズムを見直したり、整えたりすることができた。</p> <p>各学年の体育の時間に、大縄を取り入れたことにより、全校での業間運動でも毎週記録を更新していくグループが増えた。</p> <p>なわとびカードやマラソンカードの配付によって、色々な技に挑戦したり、自分で目標を決めて取り組んだりし、回数を増やしたりタイムを縮めたりすることができていた。</p>
22	麻生津	小学校	<p>学校全体をあげて持久力(体力)の強化に取り組み、体力・運動能力調査における20mシャトルランの結果が、各学年において概ね良好であった。</p> <p>偏差値(Tスコア)＜県平均比較＞ 昨年比 5年男子:46.96→50.87 6年男:44.06→49.29 5年女子:44.93→49.32 6年女子:47.39→51.15</p>
23	国見	小学校	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査基本集計アンケートの結果、体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」する90%、体育の授業で、目標を意識した学習で「できたり、わかったり」する100%と、すすんで運動に取り組んだり教え合いながら運動したりする児童がみられた。</p> <p>休み時間に、鉄棒やなわとびの技に対するめあてをもって、進んで練習をする児童がみられた。</p>
24	岡保	小学校	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、体育活動の制約が少なくなった。岡保地区区民体育祭と小学校校内体育大会の合同開催など、地域との交流が活発になった。また、マラソン大会をはじめとする様々な体育の発表会に保護者の方にお越しいただき、児童のがんばっている様子を見ていただくことができた。業間運動の成果は、持久力(体力テストのシャトルラン)に表れ、6年生は平均で7.6点を記録することができた。</p>
25	東藤島	小学校	<p>コロナによる制限がなくなり、大休みや昼休みのグラウンド使用を全学年に開放したり、体育館割り当ても複数学年にししたりしたことで運動する機会や時間が増えた。</p> <p>タブレットを活用し、自分やチームの動きを確認し、友達と話し合い改善につなげたり、お互いの良いところを褒めたり認め合ったりすることができた。器械運動の学習で、タブレットの動画アプリを活用して手本の動きを確認したり、友達にポイントを伝え合ったりし、児童同士で高め合う活動ができた。</p> <p>また、なわとびカードや、ランク上位者(名人、仙人、神など)の掲示物により、様々な技に楽しみながらチャレンジしていた。さらに、必然的に教え合う場が生まれ、体や縄の動かし方を考えながら上達する児童も増えた。</p> <p>体育委員会がたてわり班で運動をする企画を考え、上級生と下級生の間で教え合い、学び合いが生まれた。</p>
26	殿下	小学校	<p>小中合同体育や他校との合同授業、地域の方や保護者とのスポーツ大会の実施により、チーム競技の楽しさを味わうことができた。</p> <p>ICT機器や体育ノートを活用したことで、考えて運動し、見つけた視点を生かして仲間同士でアドバイスし合う姿が増えた。そして、互いに刺激し合うことで、様々な技の上達につなげることができた。また、休み時間の遊びにも、自分たちをパワーアップさせる動きを取り入れさせることができた。</p>
27	鶉	小学校	<p>教科体育・特別活動などの取組を通して、運動が日常化されており、業間の自由運動も非常に盛んである。マラソン運動に関しては、順位よりもタイムに着目できる児童が増加してきたことを感じる。縄跳びカードを利用し、教師の適切な促しから、児童自らが目標設定を行い、懸命に跳ぶ姿が多く見られた。</p>
28	本郷	小学校	<p>時間走や持久跳びをはじめた当初、3分間が精一杯だったのが、今では3分を楽にこなすことができる児童が増えてきた。</p> <p>体幹トレーニングをしたことで、低学年を中心に体の軸がしっかりとってきた。</p>

29	棗	小学校	各単元末に設定している球技大会や駅伝大会、器械運動発表会、なわとび集会等の行事に向けて、児童が自ら目標を立て、技能向上に向けて探究的に練習するようになった。自分の動きを動画で撮影して分析したり、教員や友達にすすんでアドバイスを聞きに行ったりと、意欲的に学習・活動する児童が増えた。
30	鷹巣	小学校	カードなどで個々に自分に合わせた目標を定めることで、運動が苦手な児童も意欲を持って運動に取り組めた。 学校全体での行事を行うことで、高学年の児童の技を見てお手本にしたり、低学年の児童に高学年の児童が指導したりするなどの交流が見られた。 「目標を持ち、それに向かって友達と励ましつつ努力を重ね、できるようになった達成感を感じる。」といった、つながりを生かした主体的な活動ができた。
31	長橋	小学校	学校評価児童アンケートで「自分は、休み時間や放課後に進んで運動している」は、ほとんどの児童が肯定的である。 自分の記録を更新しようと積極的に練習をする児童が見られ、記録の更新をすることができた競技もあった。
32	森田	小学校	体力テストの昨年の自校との比較では、4年生の男女で3項目以上、6年生の男女で6項目以上の向上が見られた。体力や運動能力は、5年生を含めてコロナ禍の3年間よりも向上・改善しているといえる。5年生で「運動が楽しい」と答えた児童も、男女とも80%以上に達した。
33	明新	小学校	体育的行事のために、マラソンカードやなわとびカードを作成することで目標をもって取り組めるようにした。マラソン大会では昨年よりも距離を伸ばし、なわとび大会は4年ぶりの開催になったが、児童が意欲的に取り組むことができていた。
34	酒生	小学校	本年度は体育館の改修工事があり、体育は地区の体育館を利用した。そのため、体育は2時間続きの時間割になった。体育が2時間続きの時間割になったことで、通常の1時間の体育に比べ、運動技術やチームの作戦などの思考を働かせる時間と考えたことを実践してみる体を動かす時間を連続してとることができた。練習する時間も多く取ることができ、できるようになるまで集中して、意欲的に練習する児童たちの姿も見られた。
35	一乗	小学校	体育の授業での取り組みや、大休み・昼休みにボール運動・遊びを行ったことで、5年生の体力テスト(ボール投げ)の結果が福井県の平均記録を上回った。 複式の授業の中で、上の学年から下の学年への技のアドバイスや声かけが見られ、技能の習得や技術の向上につながった。
36	上文殊	小学校	握力測定コーナーの設置により、競争心が生まれ、握力を高める意欲の向上に繋がった。 5、6年生の各学年の平均握力は、昨年度に比べ、約2.6kg向上した。 縄跳び月間は、児童が自分から進んで縄跳びに取り組み、多様な技に挑戦する良い機会になった。 業間体育の時間に行った8の字跳びでは、高学年が低学年に跳ぶタイミングを教えたり、みんなで声を出し、数え合ったりと協力しながら8の字跳びを楽しむ様子が見られた。 縄跳び月間の取組により、休み時間に進んで体育館に足を運ぶ児童が増え、縄跳びに対する意欲の向上に繋がった。
37	六条	小学校	体力向上のために実施しているチャレンジタイムでは、8の字跳びを行った。体育委員会主導で、毎回の結果を折れ線グラフで掲示することで、伸び具合がわかるようにした。1ヶ月で30回以上伸びている班もあり、児童の意欲向上につながった。 校内なわとび大会では、自分が得意な技やチームで練習した技を披露する「すごうでタイム」を設けた。高学年による「クロスタッチ」や1年生児童による「前二重跳び」と「後ろ二重跳び」などを発表して、全校に認められる場を設けた。
38	文殊	小学校	マラソン大会では、業間にたくさん練習に取り組む児童が増え、順位やタイムが上がった児童がたくさん増えた。なわとびの学習では、自分の記録が全校でどのくらいなのかを掲示することで、さらに記録を伸ばそうと練習に励む様子が見られた。

39	東郷	小学校	陸上運動の走り幅跳びの学習で感覚を養う運動で立ち幅跳びを取り入れた。その結果体力・運動能力調査の立ち幅跳びにおいてほとんどの学年で男女とも県平均を上回ることができた。ボール運動の学習では、児童同士がコミュニケーションを取り、グループで練習をしたり、攻め方や守り方を考えながらゲームをしたりした。男子は、体力・運動能力調査のボール投げにおいてどの学年も県平均を上回ることができた。
40	日新	小学校	授業中に道具を使ったり、ルールを工夫したりすることで、児童がいきいきと運動に取り組んでいた。その成果として、学校評価での児童の回答で「体育の時間や休み時間などしっかり運動している」に対して、「よくあてはまる」という児童がR4年度と比べて18%ふえた。
41	清明	小学校	5年生の体カテストの握力の結果は、T得点が女子については昨年度より4ポイント増加した。同じく体カテストでの質問項目、「運動やスポーツが好きか。」では、「好き」「やや好き」と答えた児童が、男子で昨年度より5%増加の97%、女子についても91%という結果だった。
42	社西	小学校	保護者アンケートにおいて、86%の保護者が学校は児童の体力作りに努めていると回答した。今年度の体カテストの結果より、昨年度課題であった立ち幅とびにおいて4～6年生で県平均を上回る学年が増加した。
43	下宇坂	小学校	小規模校だからこそ、児童の活動量は多くとることができた。鉄棒やマットに触れる時間が多くとれるため、技の習得や向上はしやすかった。1～4年生と一緒に体育をする際は、4年生がリーダーシップをとり、普段よりも安全面を意識し、リーダーらしく授業に取り組んでいた。3～6年生で体育を行う際は、高学年の技や動き方を中学年が見ることで、お手本となっていた。複式学級で、全校児童で、教員や地域とともに、協働して取り組むことで、励まし合いながら運動に親しむことができると感じた。
44	羽生	小学校	走り幅跳びや器械運動等の授業において、タブレットを使って試技の様子を動画で撮影することで、自分の動きを客観的に見ることができるようになり、一人一人の技能向上に繋がった。器械運動器具を常設し、また、児童が器具に触れる機会を増やすことができた。器械運動発表会の前には、業間運動にも、練習を行い、全校で器械運動に向かう意欲を高めることができた。
45	美山啓明	小学校	体育や休み時間に進んで運動に取り組んでいるという児童は80%を越え、運動が好きな児童も多い。日頃の休み時間での運動遊びや縦割り運動の成果として持久力、投力が前年より高い結果となった。多くの項目で県平均を超えているので、引き続き縦割り運動や運動する場を計画していきたい。
46	越廼	小学校	水泳の実技指導者から指導をしていただいたことで、低学年児童はビート板を使い、顔を水中につけながら進むことができるようになった。中・高学年は児童の泳力に合わせて、ビート板を使ったパタ足からクロールまでの段階的な指導をしていただき、多くの児童が泳力を高めることができた。
47	清水西	小学校	昨年度と比較すると、5類感染症移行ということもあり、業間体育を計画的に取り組むことができた。また、全校をあげて外遊びを推奨し、児童が自由に運動することができる機会を増やしたことで、アンケートにおいて、運動が楽しいと回答する児童の割合が81%から89%に増加した。
48	清水東	小学校	器械運動では、発表会に向けてや授業の中でタブレットをうまく活用したことで、できなかった技や新しい技への意欲が向上した。 業間体育では、全学年での実施をしたことで、異学年に負けたくないよう、進んで運動する児童が多く見られた。(児童アンケート 前期:92% 後期:85%)
49	清水南	小学校	学校評価「体を動かすことが好きだ」の項目でのA+B評価の割合が、1回目の89%から2回目は96%に上がった。 昼休みには、学年関係なく体育館で鬼ごっこをしたり、リレーをしたりして体を動かす姿がたくさん見られた。

50	清水北	小学校	<p>マラソン、なわとび、器械運動で体育的行事を実施したことは、児童がそれぞれの運動に向かう動機付けとなった。児童は、熱心にかつ主体的に取り組んだことで技能の向上を実感することができ、なおかつ達成感も味わえた。</p> <p>持久走やなわとび等において、友達との比較ではなく「自己の技能の向上」に目を向けることを重視したことで、児童の意欲が高まった。</p> <p>どの単元でも振り返る観点が分かる学習カードに統一したことで、教師は、児童がどのように考えて活動したのかや、何が分かったのかを把握しやすくなった。また、児童も、同様のカードにしたことで、書くことに慣れ、より具体的に振り返りができるようになった。</p>
51	杉坂	小学校	<p>シールを取り入れることで、「できた」が目に見えてわかるようになり、運動意欲が高まった。記録の伸びも見られた。(例: なわとびで跳べる回数が増えたり、跳べる跳び方が増えたりした。マット運動でできる種目が増えた。)</p> <p>5分間走を継続したことで、持久走の記録が伸びた。(例: 持久走の記録が春と秋で4分上がった。)</p>